

コットン栽培農家さんをご紹介します 第6回 鈴木京子さん



いわき市の中心より2.8キロに位置する平下平窪地区は、近年住宅化が進み鈴木京子さん宅の回りでも農家さんは数件になってしまいました。ご両親から任された畑は200坪程。自宅から割と近い所ですが、側には夏井川が流れ冬の到来と共に白鳥が飛来する自然豊かな地域です。

コットン栽培に参加したのは「オーガニックへの憧れ」からだっただけです。いわき市内でオーガニックコットンプロジェクトがスタートしたニュースを知って即座に決意したとのこと。またコットン栽培に出会う以前から生活面、特に食事や衣類等に関してオーガニックを大切にしている生きかたをしてきたと言います。何事にも興味を持ってしまおう京子さんの将来の夢は綿を紡ぎ編んで自分の作品を作る事だそうです。

今年で5回目の挑戦。毎年余り失敗したことがなく綿の収穫量もほぼ同量。背景には河川敷に近い肥沃な大地になった地の利と考えられます。

同居するお母さんは皆さんの喜ぶ顔を見るのが楽しいと育てたスイカやトウキビ等畑に届けて下さっています。こうした中でボランティアさんとの交流が深まり今年にはホームステイの受け入を行ったとのこと。又、この夏埼玉から女子高生が泊まりに来るなど面倒みの良さはお母さん譲りのようです。

最後に京子さん曰く「私、余り畑の手入れはダメなんです」「あつと言うまに雑草が伸び、手に負えなくなってしまうんです」「正直言って皆さんの応援があるからやれるんですよ」と控えめに話す京子さんのお顔には優しさが溢れていました。皆さん楽しく応援して下さいるのはきっと京子さんの持つ福德なのかもしれませんね。

永崎団地集会所で初めての交流会

コットン畑の農作業や綿のゴミ取り作業など、毎年2回ボランティア活動で来市下さっている「東京海上日動システムズ」の皆様一行30名が、6月25日今年2度目のボランティア活動に来てくださいました。

今回は仮設住宅の方々との交流をメインにしたいとの申し出でした。そこで本会では昨年末小名浜下神白地区に完成した189世帯が入居できる「いわき市災害公営住宅」の役員の方々に初めてお目に掛かり、相談に乗って頂きました。真新しい看板の永崎団地集会所は30坪。部屋数の多い集会所でしたが、役員の方々に初めて交流会と言うのは初めての事だけに、「良い事だと思うが、どれだけの方が来てくれるか保証はないよ」との返事でした。しかし、迎えた当日は20名の方達が集まりました。ボランティアさん5名住民3名が1テーブルに座りコットンペーパー作りを始めました。1テーブルに講師1名がついたのですが、皆さん初めての体験とあって「難しいな〜」など大変賑やかなワークショップ風景となりました。小振りに仕上がった方。驚くほど大きな人形に仕上がった方など様々。完成した人形をお互い見せ合いながら「あんなの可愛いね」「もう一回やれば旨行くんだが」との声が聞かれました。終了後は「東京海上日動システムズ」の皆様から、おむすび弁当とスープの提供があり、「美味しいね」「スープのお代わりありますか」「まだ残ってますよ、ど〜ぞ」と言った賑やかな会話が飛び交う楽しい会食風景となりました。2時間という短時間の交流でしたが、外部から心を寄せて下さる方達と住民とを繋ぐ役割が本会にあることを痛感しました。今後こうした形で交流を推進していきたいと思えます。



私たちの活動を会員として支えて下さい。
会費納入をよろしくお願い致します。

会費：活動会費（実際に活動に参加される方と、会報の講読という形で支援して下さる方） 2,000円/年

賛助会員（資金的な面から支えて下さる方と法人・団体会員） 10,000円/年

郵便振替（02110-0-24908）でお送りください。

（株）コヤマドライビングスクールさんの応援に感謝!

今年5月、東京渋谷に本社がある（株）コヤマドライビングスクールさんから「いわきオーガニックコットンプロジェクト」に参加してボランティア活動をしたい旨の申出がありました。東日本大震災後間もなく石巻市などでボランティア活動に取り組んだ経験を持つだけに、今回の活動は距離的に近くなることもあって意気込みの凄さを感じました。

（株）コヤマドライビングスクールは都内に4校、神奈川県に1校と日本一の規模を誇る自動車学校です。各学校からボランティアを募り11月までのほぼ毎週社員を派遣したいというものでした。しかも2日間まるまる農作業に当たって頂けるため本当に有り難く力強い応援です。宿舎については長期間の活動になるため、おつきあいのある湯本温泉の古滝屋にお願いしました。そして、早速6月14日からスタートする事ができました。

モスグリーン色のスクールバスを仕立てて、午後2時ボランティアセンターに到着された第一陣は総務人事部の安齊さんと女性社員2名でした。早速震災後の本会の取り組みやオーガニックコットンプロジェクトの概要説明をしました。

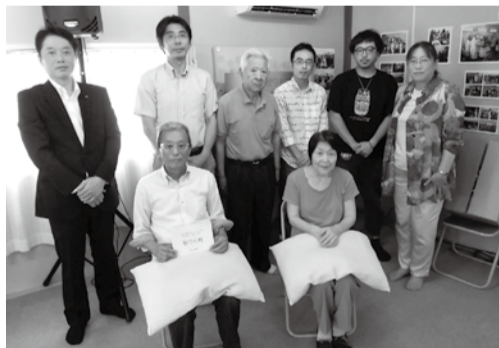
受入側としては明日から2日間重労働になるだけに宿舎に帰られるまでの数時間はゆっくり休んで頂きたいと思っておりましたが「少しの時間も無駄にしたいくない。何でもやりますよ」との事でしたので、本来事業である古着の倉庫に案内しました。私達がピラミッドと呼んでいる古着の山を見上げ驚かされていました。毎月回収される古着約20トンの内50%は汚れていたり古かったりリユース販売等には活用できないため、それらは自動車の内装材として活用できることを説明。その後スクールバスを使って別の倉庫に数回にわたって運び込む仕事をして頂きました。この倉庫ではトンバックという袋に200キロ程の古着を詰め込み月2回15トンを一ノ関に搬送しています。この詰め込み作業については第2陣の方々からお手伝いして頂きました。翌日からの2日間はコットンチームと一緒に畑での草むしりや支柱立て、綱張り作業などに取り組んで頂きましたが、疲れを見せない爽やかな笑顔の皆さんにスタッフ一同エネルギーを頂いているといった感じです。

今後11月までの5ヵ月間、多いときで7名の方々が来てくださる事になっています。本会にとって（株）コヤマドライビングスクールさんの応援は本当に有り難く感謝で一杯です。



眠り杉枕の贈呈式行われる

7月18日、泉玉露にある富岡町の仮設住宅集会所で、眠り杉枕の贈呈式が行われました。この眠り杉枕とは、市内で東日本大震災後の林業再生を目指して高級杉材割り箸の製造販売などを行っている株式会社磐城高箸（高橋正行社長）が、割り箸製作時に出る杉チップを中綿がわりに使用して開発した杉の香りのする枕です。高橋社長から枕カバーをふくしまオーガニックコットンの生地で作ろうとの話を頂き、その生地開発費用を集めるためのクラウドファンディングFAAVOのお手伝いなどをさせて頂きました。完成した眠り杉枕を眠れない夜を過ごしておられる避難者の方にプレゼントしようということで、そのクラウドファンディングで応援して下さったたくさんの方々のご代表もお迎えして、この贈呈式が行われたのでした。仮設住宅にお住まいの方の中で、通院中の方などに優先的にということで、お二人の代表の方に受け取っていただきました。ふくしまオーガニックコットンで作られた枕カバーもお褒めいただき、いわき地域内での地元企業とのコラボ事例第1号を誇らしい気持ちで見守りました。



フラガールズ甲子園と一緒に！ 地球市民フェスティバル

今年で第15回を数える「いわき地球市民フェスティバル」が、8月21日いわき市中央公園において催されます。公園では、当日アリオスパークフェスが催されますし、アリオス館内では、毎年の恒例行事となったフラガールズ甲子園も催されます。公園周辺に様々な楽しみ、賑わいが集まることとなります。

地球市民フェスティバルでは、昨年度のフェスティバルで来場者の方々に手作りしていただいたソーラーパネルをネパールに届けた際の報告展示を行うと共に、今回の会場でも皆でソーラーパネルを手作りすることになっています。ぜひ、当日会場に足を運んでご参加ください。

